

AEGIS-Women イベントご報告（第38回日本内視鏡外科学会総会）

AEGIS-Women（消化器外科女性医師の活躍を応援する会）は、設立10周年という大きな節目を迎えます。「プレ10周年記念企画」として、2025年12月11日第38回日本内視鏡外科学会総会（パシフィコ横浜）にて、AEGIS-Women と株式会社アムコの共催によるブースセミナー「小さなポート、守る大きな安全～そのポート創大丈夫？～」を開催しました。

本セミナーは AEGIS-Women 会員ページにて動画配信しております。



[AEGIS-Women 会員専用コンテンツ 動画サイト](https://www.aegis-women.jp/member/index.html)

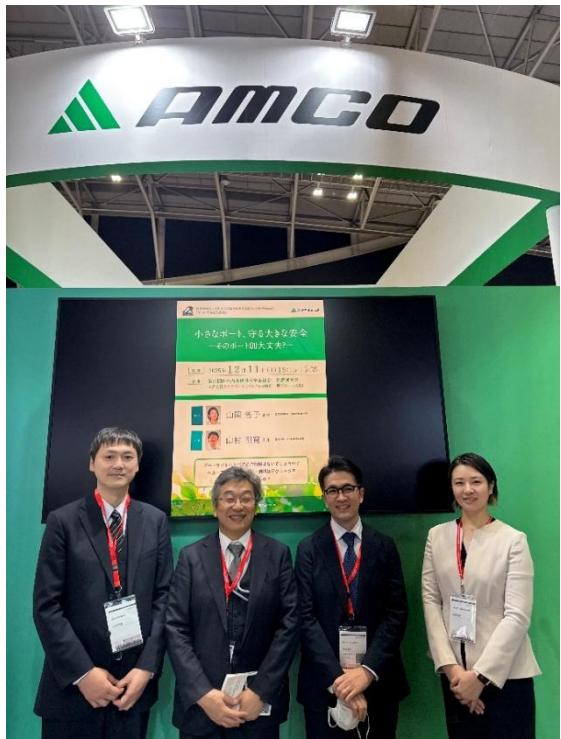
<https://www.aegis-women.jp/member/index.html>

司会は山岡善子先生（北里大学）、講師は山村明寛先生（東北大学）が務められました。まず、ロボット手術などで多用される8 mm ポートの閉鎖の是非について解説されました。一般的に 10 mm 未満のポート創は閉鎖不要とされることもありますが、ロボット手術ではポートの軸ずれによる創の拡大が生じやすいため、また腹膜欠損のみでも発症し得る「Richter 型ヘルニア」のリスクがあることを踏まえ、体腔外から腹腔内を観察し確実に閉鎖することの重要性が強調されました。



さらに AHS / EHS ガイドラインにおいて筋膜閉鎖に推奨されている「モノフィラメント吸収糸」は滑りやすく結紮に工夫を要するため、取り扱いが難しいという課題があります。山村先生は、糸の種類ごとに創閉鎖に適した組み合わせを具体的に示され、こうした糸を確実に把持し、腹膜を含めた全層を安全かつシンプルに縫合するために、腹腔内から操作可能なデバイスを活用することが有用であると述べられました。

基本手技を徹底することが患者さんの安全確保と術後 QOL の向上につながるということを再確認しました。また、来る 10 周年イベントに向けて、大きな弾みとなる盛況な会となりました。



編集：高村卓志、山岡善子、松永理絵、大越香江